

湯前小学校  校長室だより		令和5年 3月3日 第17号 文責 吉村 和仁
---------------------	--	----------------------------------

### ○特別支援教育と合理的配慮

今回は、特別支援教育について少しお話しをします。

人には、それぞれ個性や特性があります。得意なものもあれば、苦手なものもあります。私は、周囲が少々騒々しい中でも人の話を聞くことができます。ところが、周囲で他の人同士がしゃべっていると、その声に気をとられ話を聞けなくなってしまいます。講演会などで周りが話をしていると、それが例え小さな声だったとしてもダメです。

これが、子どもが教室で授業を受けている場合だったらどうでしょう。先生の話の聞かなければならないのに、友達の声が耳に入ったり、椅子を動かす音に気をとられたりして、集中できなくなります。子どもにとっては大問題です。だから、学校では「人の話を聞くときは、しゃべらずに、相手の目を見て聞きましょう。」という指導を行います。これは学習時における「しつけ」でもありますが、周囲の音や声に敏感な人にとっては「学習のための支援」ともなるわけです。このように、困難な状況や不安な状況を解消したり軽減したりする対応のことを「合理的配慮」と言います。その他に例をあげると、学校の階段手すりも、必要のない子どももいますが、入学したばかりの1年生にとっては不安を軽くするために必要な合理的配慮となるわけです。

特別支援教育とは、特別なことをしたり特定の人を対象としたりするのではなく、人間の特性や成長に応じて、合理的配慮を行っていく教育だということです。

最初から「できない」と決めつけてしまうのではなく、それまでの対応を見直し、少し変えてみるだけで、子どもは自信をもち、自らの可能性を広げていくかもしれません。特別支援教育に該当するのかどうかを判断すること以上に、特別支援教育の視点をもって、子どもと接していくことが大切だということになります。

### ○3 学期末授業参観は、ご来校いただきありがとうございました

2月28日から3月2日まで授業参観を行いました。この3年間は、新型コロナウイルス対応で、期日を分けて授業参観を行ってきました。保護者の皆様には、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。令和5年度の授業参観については、これから方法等を検討していきます。

### ○子どもの何を評価するか

世間や仕事では、成果や結果が重視されることが多いと思います。高校入試や大学入試でも結果がすべてです。では、成果や結果が出ていないと、努力が足りないのかというと、そうではないことはご承知のとおりです。その人の姿勢であったり、意欲であったりとかに目を向けなければなりません。見えないところまでしっかりと認め、評価してあげることが大切です。(人は、そうして伸びていきます)

そのような思いをもって、通知表でお子様の成長をお伝えしたいと思います。